

★1メートル級を交えてトップは12本

▶船宿仕掛けはテンピン式の1本バリ、使用オモリ60号  
▼エサはコノシロの切り身



▶中間と並んで竿を出せば楽しさ倍増  
◀当日は観音崎～走水沖の水深78メートル付近を狙った

# 12月は東京湾の冬タチ最盛期

内房富津港出船

撮影●本誌編集部



▲指示ダナは底から10～15メートル

▶胴の間で好調



▼ベテランはマイペースで順調に釣る



▼釣り場が深くなるにつれ、掛けてからの手応えが充実するのが冬タチのいいところ



▲フラッシュ付きの仕掛けで良型ゲット  
◀5～7本前後の人が多かった



◎フィニッシュはハリスをつかんで抜き上げて

依然として好調をキープしている東京湾のタチウオ。観音崎沖の水深80メートル付近を軸に、走水沖などでも反応が出続けている。  
内房富津港の鹿島丸で取材した11月中旬は、数日シケが続いて水温が低下した影響もあってか全般に食い渋り気味。それでも皆さん手を休めずに誘い続け、大中小交じりでいい人は10本以上とまずまずの釣果。  
「シケ前はトップで20〜30本は釣ってましたから、魚が冷たい潮に慣れればまたバリバリ食い出しますよ」と船長。模様が安定して大型がよく釣れる、冬タチの最盛期はこれからだ。  
(詳細は54ページ参照)



◎内房富津港・鹿島丸 船長 孝夫